

沖縄県

きゆな

ともひと

ちあき

施設野菜

喜友名 朝士(36歳)・千晶(33歳)さん



新規就農を志した経緯・背景

大学卒業後に鹿児島県の農業法人で4年半、主にピーマンの栽培を担当。
(千晶さんも同じ法人で3年半ピーマン栽培を担当)
故郷の沖縄に帰省後はうるま市のレンタルハウスを借用し、令和4年にピーマン栽培を開始。

当事業の取組内容

活用

- ・農地、機械の購入
- ・生活費

研修

- ・経営2年目(令和5年)には、県内平均を超える反収11tを収穫できたが、勤めていた鹿児島県の農業法人(反収20t)に比べるとまだまだ収量差が大きいことが課題であった。
- ・反収向上を目指して、環境計測装置で得られたハウス内の環境データを分析し、栽培に適した環境づくりに取り組むプロジェクト活動を令和6年から開始した。
- ・千晶さんも就農したことで、細やかな管理作業の時間を確保できたこともあり、翌年(令和7年)は反収アップにつながった。
- ・農地の取得、市の補助事業でのハウス整備、農業青年クラブのレンタルハウス借用により面積拡大。

経営発展のための取組

- ・ピーマン収穫後の夏場の収入確保のため、今期から夏秋ピーマンの栽培にチャレンジする。
- また、小松菜の生産も伸ばしていきたい。
- ・今の面積をうまく活用して、年間を通して収入を確保できるようにしたい。

就農状況と今後

経営初期 (1～2年目)

ピーマン 8a
(ハウス4棟)

- ・令和4年に経営を開始
- ・経営開始資金を活用し、機械等を導入
- ・経営2年目には、県内平均を超える反収11tを収穫することができた。



就農3年目

ピーマン 8a (ハウス4棟)
小松菜 3a

- ・さらなる反収向上を目指して、令和6年からプロジェクト活動を開始
- ・妻も就農し労働力アップ
- ・農業所得は約300万円



現在 (就農4～5年目)

ピーマン 21a (ハウス11棟)
小松菜 10a

- ・補助事業でのハウス整備等により面積拡大
- ・夏秋ピーマンの栽培にチャレンジ
- ・農業所得は約300万円



今後の目標 (就農8年目)

ピーマン 21a (ハウス11棟)
小松菜 10a

- ・ピーマンをメインに、年間を通じて収入を確保できる栽培体系を確立
- ・農業所得の目標は600万円